



## Call Display Restrictions 機能

Call Display Restrictions 機能を使用すると、コールまたは接続されている回線についてどのような情報を表示するかを、コールを行っているユーザに応じて選択することができます。Cisco Unified CallManager の特定の設定項目を使用すると、各コールに関する情報を表示するか制限するかを選択できます。

たとえば、ホテル環境で、客室とフロント デスクとの間で行われたコールの情報は表示し、客室間で行われたコールについては、いずれの電話機でもコール情報を表示しないとします。Call Display Restrictions 機能を使用すると、このような表示が可能になります。

この章では、Cisco Unified CallManager での Call Display Restrictions 機能の使用に関する次の情報について説明します。

- [Call Display Restrictions 機能について \(P.17-2\)](#)
- [Call Display Restrictions のシステム要件 \(P.17-3\)](#)
- [Call Display Restrictions を使用する場合のシナリオ \(P.17-4\)](#)
- [インタラクション \(P.17-5\)](#)
- [Call Display Restrictions の設定 \(P.17-7\)](#)
- [関連項目 \(P.17-15\)](#)

## Call Display Restrictions 機能について

Call Display Restrictions 機能は、Cisco Unified CallManager 5.0 が実行されている Cisco Unified CallManager クラスタ内で使用できます。Call Display Restrictions 機能を有効にするには、次のパラメータを設定する必要があります。

### 変換パターンのパラメータ

- [発呼側回線 ID の表示 (Calling Line ID Presentation)]
- [接続回線 ID プレゼンテーション (Connected Line ID Presentation)]

### 電話機の設定およびユーザ デバイス プロファイルのパラメータ

- [プレゼンテーションインジケータを無視 (Ignore Presentation Indicators、内線コールのみ)]

これらの設定を組み合わせることによって、各コールの情報表示を許可するか制限するかを決定できます。

この項の内容は次のとおりです。

- [Call Display Restrictions 機能の概要 \(P.17-2\)](#)
- [Call Display Restrictions の有効化 \(P.17-2\)](#)

## Call Display Restrictions 機能の概要

Call Display Restrictions を使用すると、コールまたは接続回線の情報を選択的に表示または制限できます。次のようなニーズがあると思われるホテル環境では、この機能が頻繁に必要になります。

- 客室とフロント デスクとの間のコールについては、客室とフロント デスクの両方で互いのコール情報を表示する必要があります。
- 客室間のコールについては、互いにコール情報を表示しない。
- 客室とホテルの他の内線 (クラブ ハウスなど) との間のコールについては、客室だけにコール情報が表示されるようにする。
- 構内電話システム (PSTN) からフロント デスクまたは客室にかかってきた外部コールの場合は、表示設定が制限されている発信者のコール情報は表示しないようにする。
- フロント デスクにかかってくるすべてのコールについては、内部コールのコール情報を表示する。

## Call Display Restrictions の有効化

Call Display Restrictions 機能は、さまざまな変換パターンを通じたコールのルーティングを行ってから実際のデバイスに送達することを基盤にしています。ユーザが適切な変換パターン番号をダイヤルすることによって表示が制限されます。

### 変換パターンの設定

Call Display Restrictions を有効にするには、[発呼側回線 ID の表示 (Calling Line ID Presentation)] パラメータと [接続回線 ID プレゼンテーション (Connected Line ID Presentation)] パラメータに適切なオプションを選択して、表示制限のレベルが異なる変換パターンを設定します。

これらのパラメータの詳細については、[P.17-8 の「変換パターンのパラメータ設定」](#)を参照してください。



## ヒント

変換パターンに加えて、パーティションとコーリング サーチ スペースも設定する必要があります。これらの設定の詳細については、『Cisco Unified CallManager アドミニストレーションガイド』の「変換パターンの設定」の章を参照してください。

**電話機の設定およびユーザ デバイス プロファイルの設定**

次に [プレゼンテーションインジケータを無視 (Ignore Presentation Indicators、内線コールのみ)] パラメータを有効にして、内部コールに関して受け取る表示制限を無視するように設定し、デバイスがリモート ユーザのコール情報を表示するようにします。

この設定の詳細については、P.17-9 の「電話の設定」を参照してください。

エクステンション モビリティが有効になっている電話機にログインするユーザについては、Cisco Unified CallManager の管理ページの [デバイスプロファイルの設定 (Device Profile Configuration)] ウィンドウからもこの項目を設定します。エクステンション モビリティとの対話の詳細については、P.17-6 の「エクステンション モビリティ」を参照してください。

## Call Display Restrictions のシステム要件

Call Display Restrictions をサポートしているソフトウェア コンポーネントは、次のとおりです。

- Cisco Unified CallManager 5.0

次の Cisco SIP および SCCP IP Phone、ソフトウェア ベースのデバイス、およびデスクトップ アプリケーションは、Call Display Restrictions をサポートしています。

- Cisco Unified IP Phone (モデル 7902、7905、7910、7911、7912、7920、7940、7941、7960、7961、7970、7971)
- H.323 クライアント (Microsoft NetMeeting デバイスなど)
- CTI ポート (ソフトウェアベースのアプリケーションが使用する仮想デバイス)
- Cisco IP Communicator

## Call Display Restrictions を使用する場合のシナリオ

次のシナリオで、Call Display Restrictions の使用例を示します。

- フロント デスクから客室 1 にコール：両方の電話機に互いのコール情報が表示される。
- フロント デスクから客室 1 にコールし、さらにフロント デスクは客室 2 にコールを転送：最後に接続された客室 1 と客室 2 では、互いにコール情報が表示されない。
- 外部 (PSTN) からフロント デスクにコール：フロント デスクは外部発信者の表示設定を順守する。
- 外部 (PSTN) から客室 1 にコール：客室 1 では外部発信者の表示設定を順守し、外部発信者には客室 1 のコール情報は表示されない。
- 客室 1 からフロント デスクにコール：両方の電話機に互いの情報が表示される。
- 客室 1 から客室 2 にコール：いずれの電話機にも互いの情報は表示されない。
- 客室 1 からフロント デスクにコールし、フロント デスクはこのコールを客室 2 に転送：最後に接続された客室 1 と客室 2 では、互いにコール情報は表示されない。
- 客室 1 からフロント デスク 1 にコールし、フロント デスク 1 はこのコールをフロント デスク 2 に転送：最後に接続された客室 1 とフロント デスク 2 では、互いにコール情報が表示される。
- 客室 1 から客室 2 にコールし、客室 2 はこのコールをフロント デスクに転送：客室 1 とフロント デスクでは、互いにコール情報が表示される。
- クラブ ハウスから客室 1 にコール：クラブ ハウスではコール情報は表示されないが、客室 1 ではコール情報が表示される。
- 会議コールのすべての参加者：すべての電話機のコール情報表示は「To Conference」になる。

## インタラクション

次の各項では、Call Display Restrictions 機能が Cisco Unified CallManager のアプリケーションおよびコール処理とどのように通信するかを説明します。

- コールパーク (P.17-5)
- 会議リスト (P.17-5)
- 会議とボイスメール (P.17-5)
- エクステンションモビリティ (P.17-6)

### コールパーク

Call Display Restrictions 機能とコールパークを併用する場合は、Call Display Restrictions 機能を維持するように、各コールパーク番号について関連する変換パターンを設定する必要があります。コールパーク番号の範囲に対応するように単一の変換パターンを設定することはできません。

次のシナリオを例として検討してください。

1. システム管理者は範囲が 77x のコールパークを作成し、P\_ParkRange という名前のパーティションに配置しました（客室の電話では、P\_ParkRange パーティションが電話機のコーリングサーチスペースに含まれていることによって客室の電話から可視になっていることを表示できます (CSS\_FromRoom)）。
2. 管理者は、各コールパークの電話番号に個別の変換パターンを設定し、表示設定には Restricted を指定しました（このシナリオでは、管理者は 770、771、772 ... 779 の変換パターンを作成しています）。



- (注) Call Display Restrictions 機能が正しく動作するためには、単一の変換パターンで番号の範囲に対応する (77x や 77 [0-9]) のではなく、管理者は個別の変換パターンを設定する必要があります。

3. 客室 1 が客室 2 にコールしました。
4. 客室 2 はコールに応答し、客室 1 はコールをパークしました。
5. 客室 1 がコールを取ると、客室 2 には客室 1 のコール情報は表示されません。

コールパーク機能の使用の詳細については、P.9-1 の「コールパーク」を参照してください。

### 会議リスト

Call Display Restrictions を使用する場合は、会議の参加者リストの情報表示を制限します。会議リストの詳細については、『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「Cisco Unified IP Phone」の章にある「電話機能」の項を参照してください。

### 会議とボイスメール

会議やボイスメールなどの機能と Call Display Restrictions を併用する場合は、電話機のコール情報表示にステータスが反映されます。たとえば、会議機能を起動すると、「To Conference」というコール情報が表示されます。メッセージ ボタンを選択してボイスメールにアクセスすると、「To Voicemail」というコール情報が表示されます。

## エクステンション モビリティ

Call Display Restrictions とエクステンション モビリティを併用するには、Cisco Unified CallManager の管理ページの [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウと Cisco Unified CallManager の管理ページの [デバイスプロファイルの設定 (Device Profile Configuration)] ウィンドウで [プレゼンテーションインジケータを無視 (ignore Presentation Indicators、内線コールのみ)] パラメータを有効にする必要があります。

エクステンション モビリティで Call Display Restrictions を有効にすると、デバイスにログインしたユーザに関連付けられている回線プロファイルによってコール情報が表示または制限されます。つまり、ユーザ デバイス プロファイルに入力された (ユーザに関連付けられている) 設定は、電話機設定で入力された設定 (エクステンション モビリティが有効になっている電話機のもの) に優先します。

## Call Display Restrictions の設定

Call Display Restrictions 機能を使用するには、Cisco Unified CallManager を次のように設定する必要があります。

- パーティションとコーリング サーチ スペースを設定してから変換パターンを追加する。
- 異なるレベルの表示制限による変換パターンを設定する。
- [プレゼンテーションインジケータを無視 (Ignore Presentation Indicators、内線コールのみ)] チェックボックスをオンにして、内部コールのコール情報が常に表示されるようにする。
- 個々のコールパークの電話番号に、個別の変換パターンを関連付けて設定することで、コールパーク機能と連携する。

この項では、次のトピックについて取り上げます。

- [Call Display Restrictions の設定チェックリスト \(P.17-7\)](#)
- [変換パターンのパラメータ設定 \(P.17-8\)](#)
- [電話の設定 \(P.17-9\)](#)
- [設定例 \(P.17-10\)](#)

## Call Display Restrictions の設定チェックリスト

表 17-1 に、Call Display Restrictions を設定する際のチェックリストを示します。

表 17-1 Call Display Restrictions の設定チェックリスト

設定手順	関連手順と関連項目
<b>ステップ 1</b> 客室、フロント デスク、クラブ、および PSTN にパーティションを設定します。 <a href="#">P.17-10</a> の「パーティション」を参照してください。	『Cisco Unified CallManager アドミニストレーションガイド』の「パーティションの設定」
<b>ステップ 2</b> コールパークの電話番号を設定するか、またはコールパークの電話番号の範囲を定義します。客室からのコールパーク取得用に、各コールパークの電話番号に変換パターンを設定します。 <a href="#">P.17-14</a> の「コールパーク」を参照してください。	このマニュアルの「 <a href="#">コールパーク番号の設定</a> 」
<b>ステップ 3</b> コーリング サーチ スペース内にパーティションを持つユーザだけがパーティションを使用できるようにコールパーク電話番号のパーティションを設定します。 <a href="#">P.17-10</a> の「パーティション」および <a href="#">P.17-14</a> の「コールパーク」を参照してください。	『Cisco Unified CallManager アドミニストレーションガイド』の「パーティションの設定」
<b>ステップ 4</b> 客室、フロント デスク、クラブ、PSTN のコーリング サーチ スペースと、客室のパーク範囲 (コールパーク用) を設定します。 <a href="#">P.17-10</a> の「コーリング サーチ スペース」を参照してください。	『Cisco Unified CallManager アドミニストレーションガイド』の「コーリング サーチ スペースの設定」
<b>ステップ 5</b> 客室、フロント デスク、クラブの電話、および PSTN のゲートウェイを設定します。 <a href="#">P.17-11</a> の「デバイスとゲートウェイ」を参照してください。	『Cisco Unified CallManager アドミニストレーションガイド』の「Cisco Unified IP Phone の設定」 『Cisco Unified CallManager アドミニストレーションガイド』の「デバイス プロファイルの設定」

表 17-1 Call Display Restrictions の設定チェックリスト (続き)

設定手順	関連手順と関連項目
<b>ステップ 6</b> 変換パターンとルートパターンを設定します。 P.17-11 の「 <a href="#">変換パターン</a> 」を参照してください。	『Cisco Unified CallManager アドミニストレーションガイド』の「 <a href="#">変換パターンの設定</a> 」 『Cisco Unified CallManager システムガイド』の「 <a href="#">ルートプランの概要</a> 」

## 変換パターンのパラメータ設定

Cisco Unified CallManager の管理ページの [変換パターンの設定 (Translation Pattern Configuration)] ウィンドウで、次のパラメータを設定します。



### ヒント

発信コールについては、着信側デバイスの変換パターン設定が、発信側の Cisco Unified CallManager クラスタ設定より優先されます。

### 発信側回線 ID の表示 (Calling Line ID Presentation)

Cisco Unified CallManager では、コールごとに発信側の電話番号を表示または制限するための補足サービスとして、[発信側回線 ID の表示 (Calling Line ID Presentation)] を使用します。次のいずれかのオプションを選択することによって、この変換パターンで発信側の電話番号を着信側の電話機に表示するか制限するかを決定できます。

- [Default] : このオプションは、[発信側回線 ID の表示 (Calling Line ID Presentation)] を変更しません。
- [Allowed] : Cisco Unified CallManager によって発信側の番号の表示が許可されます。
- [Restricted] : Cisco Unified CallManager によって発信側の番号の表示がブロックされます。



### (注)

着信コールが変換パターンまたはルートパターンを経由し、[発信側回線 ID の表示 (Calling Line ID Presentation)] の設定が [Allowed] または [Restricted] になっている場合、発信側回線の表示は変換パターンまたはルートパターンの設定によって変更されます。

### 接続回線 ID プレゼンテーション (Connected Line ID Presentation)

Cisco Unified CallManager では、コールごとに着信側の電話番号を表示または制限するための補足サービスとして、[接続回線 ID プレゼンテーション (Connected Line ID Presentation)] を使用します。次のいずれかのオプションを選択することによって、この変換パターンで着信側の電話番号を発信側の電話機に表示するか制限するかを決定できます。

- [Default] : このオプションは、[接続回線 ID プレゼンテーション (Connected Line ID Presentation)] を変更しません。
- [Allowed] : このオプションは、着信側の電話番号を表示します。
- [Restricted] : Cisco Unified CallManager によって着信側の電話番号の表示がブロックされます。





(注)

着信コールが変換パターンまたはルート パターンを経由し、[接続回線 ID プレゼンテーション (Connected Line ID Presentation)] の設定が [Allowed] または [Restricted] になっている場合、着信回線の表示インジケータは変換パターンまたはルート パターンの設定によって変更されます。

#### 例

- ある客室から別の客室にかけられたコールについては、コール情報が表示されないように [発呼側回線 ID の表示 (Calling Line ID Presentation)] と [接続回線 ID プレゼンテーション (Connected Line ID Presentation)] を [Restricted] に設定します。
- フロント デスクから客室にかけられたコールについては、両方にコール情報が表示されるように [発呼側回線 ID の表示 (Calling Line ID Presentation)] を [Allowed] に設定し、[接続回線 ID プレゼンテーション (Connected Line ID Presentation)] を [Restricted] に設定します。



ヒント

発信側の変換と着信側の変換の詳細については、『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「ルート プランの概要」の章を参照してください。

## 電話の設定

Call Display Restrictions 機能の設定を完了するには、Cisco Unified CallManager の管理ページの [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウで [プレゼンテーションインジケータを無視 (Ignore Presentation Indicators、内線コールのみ)] チェックボックスをオンにします。

エクステンション モビリティと併用する場合は、Cisco Unified CallManager の管理ページの [デバイスプロファイルの設定 (Device Profile Configuration)] ウィンドウでも、この項目を設定する必要があります。

[プレゼンテーションインジケータを無視 (Ignore Presentation Indicators、内線コールのみ)] フィールドの設定では、次のことに注意してください。

- 通話相手が内部である場合、Cisco Unified CallManager は常にリモート側のコール情報を表示します。
- 通話相手が外部で表示が制限されている場合、Cisco Unified CallManager はリモート側のコール情報を表示しません。



(注)

[発呼側回線 ID の表示 (Calling Line ID Presentation)] および [接続回線 ID プレゼンテーション (Connected Line ID Presentation)] では、Cisco Unified CallManager が内部発信者の表示設定を無視するように [プレゼンテーションインジケータを無視 (Ignore Presentation Indicators、内線コールのみ)] パラメータを設定してください。外部からの着信コールについては、[プレゼンテーションインジケータを無視 (Ignore Presentation Indicators、内線コールのみ)] パラメータが設定されていても、受信した表示インジケータが維持されます。

#### 例

- ホテルのフロント デスクで使用されている電話機では [プレゼンテーションインジケータを無視 (Ignore Presentation Indicators、内線コールのみ)] チェックボックスがオンになっているため、フロント デスクでは内部コールのコール情報を常に表示できます。



## ヒント

電話の設定の詳細については、『Cisco Unified CallManager アドミニストレーションガイド』の「Cisco Unified IP Phone の設定」の章を参照してください。デバイス プロファイルの設定の詳細については、『Cisco Unified CallManager アドミニストレーションガイド』の「デバイス プロファイルの設定」の章を参照してください。

## 設定例

次に、Call Display Restrictions 機能を有効にした設定例を示し、次の情報について説明します。

- [パーティション \(P.17-10\)](#)
- [コーリング サーチ スペース \(P.17-10\)](#)
- [デバイスとゲートウェイ \(P.17-11\)](#)
- [変換パターン \(P.17-11\)](#)
- [コールパーク \(P.17-14\)](#)

## パーティション

Cisco Unified CallManager の管理ページの [パーティションの設定 (Partition Configuration)] ウィンドウで、次のパーティションを設定します。

- 実パーティション P\_Room の挿入
- 実パーティション P\_FrontDesk の挿入
- 実パーティション P\_Club の挿入
- 実パーティション P\_PSTN の挿入
- 変換パーティション P\_CallsFromRoomToRoom の挿入
- 変換パーティション P\_CallsFromRoomToFrontDesk の挿入
- 変換パーティション P\_CallsFromRoomToClub の挿入
- 変換パーティション P\_CallsFromRoomToPSTN の挿入
- 変換パーティション P\_CallsFromFrontDeskToRoom の挿入
- 変換パーティション P\_CallsFromFrontDeskToFrontDesk の挿入
- 変換パーティション P\_CallsFromFrontDeskToClub の挿入
- 変換パーティション P\_CallsFromFrontDeskToPSTN の挿入
- 変換パーティション P\_CallsFromPSTN の挿入
- 変換パーティション P\_CallsFromClubToRoom の挿入
- 変換パーティション P\_CallsFromClubToFrontDesk の挿入
- 変換パーティション P\_FrontDeskToParkNumber の挿入
- 変換パーティション P\_RoomToParkNumber の挿入
- 変換パーティション P\_ParkNumberRange の挿入

## コーリング サーチ スペース

Cisco Unified CallManager の管理ページの [コーリングサーチスペースの設定 (Calling Search Space Configuration)] ウィンドウで、次のコーリング サーチ スペースを設定します。

- コーリング サーチ スペース CSS\_Room の挿入 {P\_Room}
- コーリング サーチ スペース CSS\_FrontDesk の挿入 {P\_FrontDesk}
- コーリング サーチ スペース CSS\_Club の挿入 {P\_Club}

- コーリング サーチ スペース CSS\_PSTN の挿入 {P\_PSTN}
- コーリング サーチ スペース CSS\_FromRoom の挿入  
{ P\_CallsFromRoomToFrontDesk, P\_CallsFromRoomToRoom, P\_CallsFromRoomToClub,  
P\_CallsFromRoomToPSTN, P\_RoomToParkNumber, P\_ParkNumberRange }
- コーリング サーチ スペース CSS\_FromFrontDesk の挿入  
{ P\_CallsFromFrontDeskToRoom, P\_CallsFromFrontDeskToClub, P\_CallsFromFrontDeskToPSTN,  
P\_CallsFromFrontDeskToFrontDesk }
- コーリング サーチ スペース CSS\_FromPSTN の挿入  
{ P\_CallsFromPSTN }
- コーリング サーチ スペース CSS\_FromClub の挿入  
{ P\_CallsFromClubToRoom, P\_CallsFromClubToFrontDesk }
- コーリング サーチ スペース CSS\_RoomParkRange の挿入  
{P\_ParkNumberRange }

## デバイスとゲートウェイ

Cisco Unified CallManager の管理ページの [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウおよび [ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウで、次の電話機とゲートウェイを設定します。

- 電話機 A (Room-1) にパーティション P\_Room とデバイス / 回線コーリング サーチ スペース CSS\_FromRoom を設定  
{ P\_Phones, CSS\_FromRoom } : 221/Room-1
- 電話機 B (Room-2) にパーティション P\_Room とデバイス / 回線コーリング サーチ スペース CSS\_FromRoom を設定  
{ P\_Phones, CSS\_FromRoom } : 222/Room-2
- 電話機 C (Front Desk-1) にパーティション P\_FrontDesk とデバイス / 回線コーリング サーチ スペース CSS\_FromFrontDesk を設定し、Ignore Presentation Indicators チェックボックスをオンにする  
{ P\_FrontDesk, CSS\_FromFrontDesk, IgnorePresentationIndicators set } : 100/Reception
- 電話機 D (Front Desk-2) にパーティション P\_FrontDesk とデバイス / 回線コーリング サーチ スペース CSS\_FromFrontDesk を設定し、Ignore Presentation Indicators チェックボックスをオンにする  
{ P\_FrontDesk, CSS\_FromFrontDesk, IgnorePresentationIndicators set } : 200/Reception
- 電話機 E (Club) にパーティション P\_Club とコーリング サーチ スペース CSS\_FromClub を設定  
{ P\_Club, CSS\_FromClub } : 300/Club
- PSTN ゲートウェイ E にルート パターン P\_PSTN とコーリング サーチ スペース CSS\_FromPSTN を設定  
{CSS\_FromPSTN}, RoutePattern {P\_PSTN}

## 変換パターン

Cisco Unified CallManager の管理ページの [変換パターンの設定 (Translation Pattern Configuration)] ウィンドウで、次の変換パターンを設定します。

- 変換パターン TP1 を 1XX として挿入  
[パーティション (Partition)] : P\_CallsFromRoomToFrontDesk  
CSS : CSS\_FrontDesk  
[発呼側回線 ID の表示 (Calling Line ID Presentation)] および [発呼名プレゼンテーション (Calling Name Presentation)] : Restricted  
[接続回線 ID プレゼンテーション (Connected Line ID Presentation)] および [接続名プレゼンテーション (Connected Name Presentation)] : Allowed  
{P\_CallsFromRoomToFrontDesk, CSS\_FrontDesk, Calling Line/Name - Restricted, Connected Line/Name - Allowed}

- 変換パターン TP2 を 2XX として挿入  
 [パーティション (Partition)] : P\_CallsFromRoomToRoom  
 CSS : CSS\_Room  
 [発呼側回線 ID の表示 (Calling Line ID Presentation)]および[発呼名プレゼンテーション (Calling Name Presentation)] : Restricted  
 [接続回線 ID プレゼンテーション (Connected Line ID Presentation)]および[接続名プレゼンテーション (Connected Name Presentation)] : Restricted  
 {P\_CallsFromRoomToRoom, CSS\_Room, Calling Line/Name - Restricted, Connected Line/Name - Restricted}
- 変換パターン TP3 を 3XX として挿入  
 [パーティション (Partition)] : P\_CallsFromRoomToClub  
 CSS : CSS\_Club  
 [発呼側回線 ID の表示 (Calling Line ID Presentation)] および [発呼名プレゼンテーション (Calling Name Presentation)] : Restricted  
 [接続回線 ID プレゼンテーション (Connected Line ID Presentation)] および [接続名プレゼンテーション (Connected Name Presentation)] : Allowed  
 {P\_CallsFromRoomToClub, CSS\_Club, Calling Line/Name - Restricted, Connected Line/Name - Allowed}
- 変換パターン TP4 を 9XXXXX とし、着信側変換マスクを XXX として挿入  
 [パーティション (Partition)] : P\_CallsFromRoomToPSTN  
 CSS : CSS\_PSTN  
 [発呼側回線 ID の表示 (Calling Line ID Presentation)] および [発呼名プレゼンテーション (Calling Name Presentation)] : Restricted  
 [接続回線 ID プレゼンテーション (Connected Line ID Presentation)] および [接続名プレゼンテーション (Connected Name Presentation)] : Default  
 {P\_CallsFromRoomToPSTN, CSS\_PSTN, Calling Line/Name - Restricted, Connected Line/Name - Default}
- ルートパターン RP5 を 9.XXXXXX として挿入し、数字は PreDot として破棄  
 (DDI : PreDot)  
 [パーティション (Partition)] : P\_CallsFromRoomToPSTN  
 CSS : CSS\_PSTN  
 [発呼側回線 ID の表示 (Calling Line ID Presentation)]および[発呼名プレゼンテーション (Calling Name Presentation)] : Restricted  
 [接続回線 ID プレゼンテーション (Connected Line ID Presentation)]および[接続名プレゼンテーション (Connected Name Presentation)] : Default  
 {P\_CallsFromRoomToPSTN, CSS\_PSTN, Calling Line/Name - Restricted, Connected Line/Name - Default}
- 変換パターン TP6 を 2XX として挿入  
 [パーティション (Partition)] : P\_CallsFromFrontDeskToRoom  
 CSS : CSS\_Room  
 [発呼側回線 ID の表示 (Calling Line ID Presentation)]および[発呼名プレゼンテーション (Calling Name Presentation)] : Allowed  
 [接続回線 ID プレゼンテーション (Connected Line ID Presentation)]および[接続名プレゼンテーション (Connected Name Presentation)] : Restricted  
 {P\_CallsFromFrontDeskToRoom, CSS\_Room, Calling Line/Name - Allowed, Connected Line/Name - Restricted}
- 変換パターン TP7 を 1XX として挿入  
 [パーティション (Partition)] : P\_CallsFromFrontDeskToFrontDesk  
 CSS : CSS\_FrontDesk  
 [発呼側回線 ID の表示 (Calling Line ID Presentation)]および[発呼名プレゼンテーション (Calling Name Presentation)] : Allowed  
 [接続回線 ID プレゼンテーション (Connected Line ID Presentation)]および[接続名プレゼンテーション (Connected Name Presentation)] : Allowed  
 {P\_CallsFromFrontDeskToFrontDesk, CSS\_FrontDesk, Calling Line/Name - Allowed, Connected Line/Name - Allowed}

- 変換パターン TP8 を 3XX として挿入  
[パーティション (Partition)] : P\_CallsFromFrontDeskToClub  
CSS : CSS\_Club  
[発呼側回線 ID の表示 (Calling Line ID Presentation)]および[発呼名プレゼンテーション (Calling Name Presentation)] : Allowed  
[接続回線 ID プレゼンテーション (Connected Line ID Presentation)]および[接続名プレゼンテーション (Connected Name Presentation)] : Allowed  
{P\_CallsFromFrontDeskToClub, CSS\_Club, Calling Line/Name - Allowed, Connected Line/Name - Allowed}
- 変換パターン TP9 を 9XXXX として挿入  
[パーティション (Partition)] : P\_CallsFromFrontDeskToPSTN  
CSS : CSS\_PSTN  
[発呼側回線 ID の表示 (Calling Line ID Presentation)]および[発呼名プレゼンテーション (Calling Name Presentation)] : Allowed  
[接続回線 ID プレゼンテーション (Connected Line ID Presentation)]および[接続名プレゼンテーション (Connected Name Presentation)] : Default  
{P\_CallsFromFrontDeskToPSTN, CSS\_PSTN, Calling Line/Name - Allowed, Connected Line/Name - Default}
- ルートパターン RP10 を 9.XXXX として挿入し、数字は PreDot として破棄  
[パーティション (Partition)] : P\_CallsFromFrontDeskToPSTN  
CSS : CSS\_PSTN  
[発呼側回線 ID の表示 (Calling Line ID Presentation)]および[発呼名プレゼンテーション (Calling Name Presentation)] : Restricted  
[接続回線 ID プレゼンテーション (Connected Line ID Presentation)]および[接続名プレゼンテーション (Connected Name Presentation)] : Default  
{P\_CallsFromFrontDeskToPSTN, CSS\_PSTN, Calling Line/Name - Restricted, Connected Line/Name - Default}
- 変換パターン TP11 を 1XX として挿入  
[パーティション (Partition)] : P\_CallsFromClubToFrontDesk  
CSS : CSS\_FrontDesk  
[発呼側回線 ID の表示 (Calling Line ID Presentation)]および[発呼名プレゼンテーション (Calling Name Presentation)] : Allowed  
[接続回線 ID プレゼンテーション (Connected Line ID Presentation)]および[接続名プレゼンテーション (Connected Name Presentation)] : Allowed  
{P\_CallsFromClubToFrontDesk, CSS\_FrontDesk, Calling Line/Name - Allowed, Connected Line/Name - Allowed}
- 変換パターン TP12 を 2XX として挿入  
[パーティション (Partition)] : P\_CallsFromClubToRoom  
CSS : CSS\_Room  
[発呼側回線 ID の表示 (Calling Line ID Presentation)]および[発呼名プレゼンテーション (Calling Name Presentation)] : Allowed  
[接続回線 ID プレゼンテーション (Connected Line ID Presentation)]および[接続名プレゼンテーション (Connected Name Presentation)] : Restricted  
{ P\_CallsFromClubToRoom, CSS\_Room, Calling Line/Name - Allowed, Connected Line/Name - Restricted}
- 変換パターン TP13 を 1XX として挿入  
[パーティション (Partition)] : P\_CallsFromPSTN  
CSS : CSS\_FrontDesk  
[発呼側回線 ID の表示 (Calling Line ID Presentation)]および[発呼名プレゼンテーション (Calling Name Presentation)] : Restricted  
[接続回線 ID プレゼンテーション (Connected Line ID Presentation)]および[接続名プレゼンテーション (Connected Name Presentation)] : Allowed  
{ P\_CallsFromPSTN, CSS\_FrontDesk, Calling Line/Name - Restricted, Connected Line/Name - Allowed}

## コールパーク

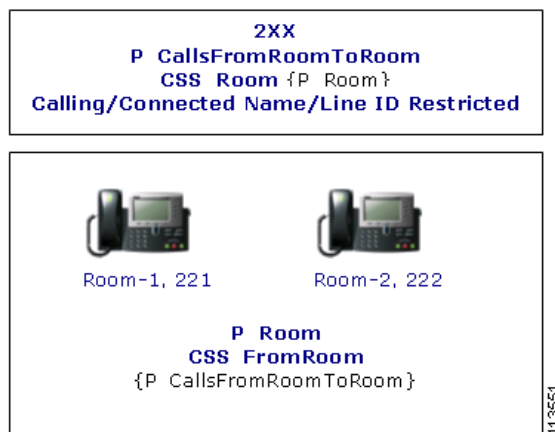
Cisco Unified CallManager の管理ページの [コールパークの設定。(Call Park Configuration.)] ウィンドウで、コールパーク機能の次の項目を設定します。

- コールパーク電話番号 888X を挿入  
[コールパーク番号 / 範囲 (Call Park Number/Range)] : P\_ParkNumberRange/888X
- 次からのコールパーク取得に対して変換パターンを設定  
客室 : TP (11 ~ 20) : 8880 ~ 8889  
[パーティション (Partition)] : P\_RoomToParkNumber  
CSS : CSS\_RoomParkRange  
[発呼側回線 ID の表示 (Calling Line ID Presentation)]および[発呼名プレゼンテーション (Calling Name Presentation)] : Restricted  
[接続回線 ID プレゼンテーション (Connected Line ID Presentation)]および[接続名プレゼンテーション (Connected Name Presentation)] : Restricted

## コールフローの例

図 17-1 に、単純なコールフローの例を示します。また、このシナリオでどのように Call Display Restrictions 機能が動作するかを説明します。

図 17-1 コールフローの例



1. 客室 1 が客室 2 (電話番号 222) にコールします。
2. 客室 1 には CSS\_FromRoom が設定されているため、客室 1 は P\_CallsFromRoomToRoom パーティション内の電話機だけにアクセスできます。
3. P\_CallsFromRoomToRoom パーティションには 2XX が含まれていますが、電話番号 222 (客室 2) は含まれていません。
4. コールは情報表示が制限された変換パターン TP:2XX にルーティングされます。
5. 変換パターン TP:2XX には、コーリングサーチスペース CSS\_Room が設定されているため、パーティション P\_Room にアクセスできます。
6. コーリングサーチスペース CSS\_Room には、電話番号 222 (客室 2) が含まれています。
7. コールは客室 2 に接続されますが、変換パターン TP:2XX によって情報表示は制限されます。

## 関連項目

- 『Cisco Unified CallManager アドミニストレーションガイド』の「変換パターンの設定」
- 『Cisco Unified CallManager アドミニストレーションガイド』の「Cisco Unified IP Phone の設定」
- 『Cisco Unified CallManager アドミニストレーションガイド』の「コーリング サーチ スペースの設定」
- 『Cisco Unified CallManager アドミニストレーションガイド』の「デバイス プロファイルの設定」
- 『Cisco Unified CallManager アドミニストレーションガイド』の「パーティションの設定」
- 『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「Cisco Unified IP Phone」
- 『Cisco Unified CallManager システム ガイド』の「電話機能」

### その他のシスコ マニュアル

- *Cisco Unified CallManager Serviceability システム ガイド*
- *Cisco Unified CallManager Serviceability アドミニストレーションガイド*
- *Cisco Unified IP Phone アドミニストレーションガイド for Cisco Unified CallManager*
- *Cisco Unified IP Phone ユーザ資料とリリース ノート (すべてのモデル)*

